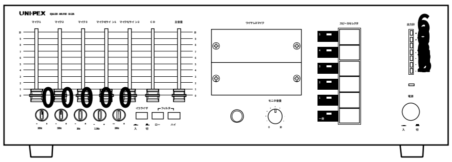
UNI-PEX

取扱説明書

体育館用アンプ

GW-120A



このたびは、体育館用アンプをお買い上げいただき 、誠にありがとうございます 。
ご使用の前 に、必ずこの取扱説明書 の「安全上のご注意 」と取扱方法に関する説明 をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。この取扱説明書はお読 みになりましたら大切に保管し、後日わからないことがあれば 再びご覧ください。

安全に正しくお使いいただくために

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のように なっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

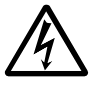
⚠ 警告

この表示を無視して 、誤った取扱いをすると 、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠ 注意

この表示を 無視して、誤った取扱 いをすると、人が傷害を負う 可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

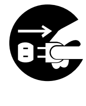
絵表示の例



△記号は注意 (危険・警告)を促す 内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容(左図の場合は感電注意)が描かれています。



⃠記号は禁止の行為 であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な注意内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。



●記号は行為を強制 したり指示する内容 を告げるものです。図の中に具体的な指示内容(左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け)が描かれています。

安全上のご注意〈必ずお守りください〉

●ご使用の前に必ず、この取扱説明書の「安全上のご注意」と取扱方法に関する説明をよくお読みの上、正しくお使いください。

●お読みになったあとは、必ず保存してください。

⚠ 警告

異常が起きたときは、ただちに使用をやめる

煙が出ている、においや音がする、水や異物が入った、落として破損したなど、火災・感電の原因となります。ただちに電源プラグをコンセントから抜いて、販売店などにご連絡ください 。

プラグをコンセントから抜け

分解／改造はしない

火災・感電の原因となります。修理や点検は、販売店などにご依頼ください。

異物を入れない

水や金属が内部に入ると、火災・感電の原因となります。ただちに電源プラグをコンセントから抜いて 、販売店などにご連絡ください 。

通風孔をふさがない

通風孔をふさぐ、ものをのせたり通 風を悪くすると内部に熱がこ もり火災の原因となります。

電源コードを傷つけない

電源コードの上に重いものをのせたり、無理に曲げたり、ねじったり、引張ったりすると、火災・感電の原因となります。電源コードが傷んだら (芯線の露出、断線) 販売店などに交換をご依頼ください 。

表示された電源電圧以外の電圧で使用しない

火災・感電の原因となります。

雷が鳴り出したら、アンテナ線、スピーカー線や電源プラグには触れない

感電の原因となります。

ACアウトレットに接続する機器の消費電力の合計は、機器に表示している W 数またはA 数を超えない。

火災の原因となります。音響機器以外は接続しないでください。

壁から5㎝　以上の間隔をおいて設置する

内部に熱がこもり火災の原因となります。また、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは 、すきまをあけてください 。

⚠ 注意

湿気やほこりの多い場所、油煙や湯気が当たるような場所に置かない

火災･感電の原因となることがあります。

不安定な場所に置かない

落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。

電源コードを熱器具に近づけない

コードの被ふくが溶けて、火災･感電の原因となることがあります。

電源を入れる前には音量を最小にする

突然大きな音がでて聴力障害などの原因となることがあります。

お手入れの際は電源プラグをコンセントから抜く

感電の原因となることがあります。

プラグをコンセントから抜け

工事は工事店に依頼する

工事には、技術と経験が必 要です。火災･感電、けが、器物損壊の原因となります。
工事店にご相談ください。

濡れた手で、電源コードを抜き差ししない

感電の原因となります。

電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない

コードが傷つき 、火災、感電の原因となります 。必ずプラグを持って抜いてください。

移動するときは、コード類を傷つけない

火災、感電の原因となることがあります。移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセ ントから抜き 、外部の接続コードを外してから行ってください。

プラグをコンセントから抜け

この機器に乗ったり、ぶら下がったりしない

特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。

テレビ、オーディオ機器、ビデオ機器、スピーカーなど の機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み 、電源を切り、説明に従って接続してください 。又接続が終わりましたら必ずスピーカー端子盤カバーを取り付けてくだ さい。感電の原因となることがあります 。

１年に一度くらいは内部の掃除を工事店などにご相談くだ さい。内部にほこりのたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨時の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については工事店などにご相談ください 。

各部の名称と説明(前面)

ワイヤレスチューナーユニット挿入口
別売のダイバシティチューナーユニットＤＵ－８０３０を2個取り付けることができます。
（Ｐ8のＤＵ－８０３０の取付方法をご覧ください。）

主音量調節つまみ
全ての音量を同時に調節します。

ＣＤ 音量調節つまみ

マイク5 /ライン2 音量調節つまみ

マイク4 /ライン1 音量調節つまみ

マイク3 音量調節つまみ

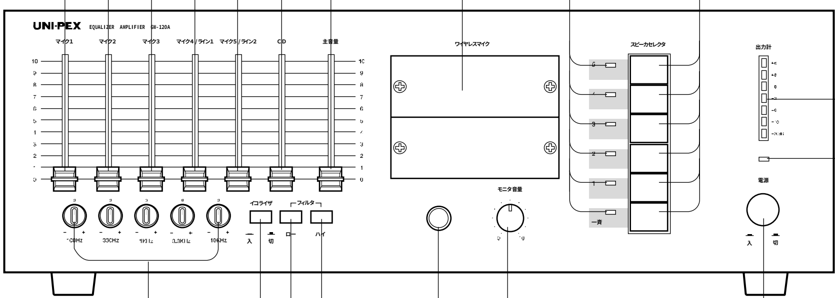
マイク2 音量調節つまみ

マイク1 音量調節つまみ

スピーカー出力表示灯
スピーカー選択スイッチを押すと、それぞれ対応する回線が点灯します。1～5は緑、一斉は赤に点灯します。

スピーカー選択スイッチ
スピーカー回線選択スイッチです。各系統別に放送したいときは、1～5のスイッチを押してください。押した系統に放送されます。全系統に一斉放送したいときは最下部の一斉スイッチを押してください。

出力レベルメーター
出力レベルを表示します。連続して＋3dB、＋6dBのLED (赤)が点灯しないように音量を調節してください。



電源表示灯
電源が入ると赤に点灯します。

イコライザー調節つまみ
Ｐ13のイコライザーの説明をご覧ください。

イコライザースイッチ
Ｐ13のイコライザーの説明をご覧ください。

ローカットフィルタースイッチ
Ｐ13のロー・ハイカットフィルターの説明をご覧ください。

ハイカットフィルタースイッチ
Ｐ13のロー・ハイカットフィルターの説明をご覧ください。

電源スイッチ
このスイッチを押すと電源が入ります。本機はスピーカー保護のため、電源を入れても2秒間は動作しません。2秒後に次の操作を開始してください。

モニター音量調節つまみ
内蔵のモニタースピーカーの音量を調節します。

チャイム押しボタン取付穴
4音チャイムユニットEC -24 (別売)を取り付けるときは、このゴムキャップをはずし、EC -24に付属の押しボタンを押込んでください。チャイムを作動せるときは、このボタンを押します。
（ EC -24の取付けは販売店にご相談ください。）

各部の名称と説明(後面)

CD入力ピンジャック
(- 22 dB V 50 kΩ 不平衡)
CDプレーヤーを接続してください。

ライン１入力ピンジャック
(- 22 dB V 10 kΩ 不平衡)
ページング(呼び出し)やカセットプレーヤーなどを接続します。

ライン２入力ピンジャック
(- 22 dB V 10 kΩ 不平衡)
ページング(呼び出し)やカセットプレーヤーなどを接続します。

録音出力ピンジャック
(-2dBV 10k Ω 不平衡)
録音されるテープデッキを接続します。

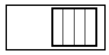
サービスコンセント(非連動)
音響機器以外は接続しないでください。

> ⚠ **警告** 接続する機器の消費電力の合計が100Wを超えないようにしてください。火災の原因になります。

端子配列表示

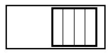
マイク５/ライン２入力切換スイッチ
使用する入力側に切り換えてご使用ください。

ライン2　マイク5



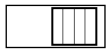
マイク4/ライン1入力切換スイッチ
使用する入力側に切り換えてご使用ください。

ライン1　マイク4



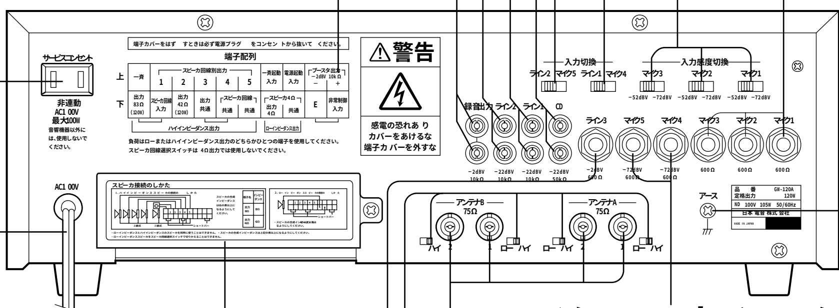
マイク1〜3感度切換スイッチ
-72dBVと-52dBVの切り換えができます。

－52dBV　－72dBV



マイク1 〜3 入力ジャック
(-72dBV/-52dBV 切換式 600Ω 電子平衡)
絶縁トランス取付可能です。

アース端子
(雑音低減用)
この端子は他の機器を接続した場合の雑音の低減をはかるためのものです。安全アース(接地用)ではありません。



電源コード
コンセントへ

端子カバー
取りはずすと、内側に出力端子板があります
各出力の接続が終われば必ずこのカバーを取付けてください。(Ｐ6 の端子カバーのはずしかた、Ｐ6〜7のスピーカの接続を参照)

ライン3 入力ジャック
(-2dBV 600Ω 不平衡)
平衡トランス取付可能です。リモートマイクRMM-105、101、BGM演奏装置BP-400、マイクロホンミキサーMX-191などを接続します。

マイク4 、5 入力ジャック
(- 72 dB V 切換式 60 0Ω 電子平衡)
マイク4はライン1と、マイク5はライン2と それぞれ入力切換式です。マイク4、5を使 用のときは、各入力切換スイッチをマイク4、5側に切り換えてください。絶縁ト ランス取付可能です。

ワイヤレスアンテナBNCコネクター
ダイバシティワイヤレスチューナーユニットDU-8030 (別売)組込時 ワイヤレスアンテナAA- 810 (別売)を4本または2 本接続します。アンテナを2本だけ設置される場合は、必ずアンテナAとアンテナBにそれぞれ1本づつ接続してください。(Ｐ8 のAA-810 の接続についてを参照)
注) コネクターからそれぞれファンタム電源 (DC12V)が出ています。ショートさせないようにご注意ください。

アンテナ感度選択スイッチ
接続されたアンテナの感度を設置状況に合わせてハイ/ ロー選択してください。出荷時のスイッチ設定は"ハイ"(従来性能) になっていますが、右記の1)〜4)の場合は"ロー"に切り換えて感度を落としますと、混信を防ぐことができます。

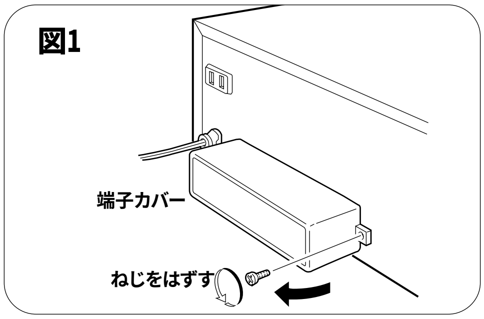
1) 他のグループのマイクを近接場所(30m 以上離れた場所)で同時に使用する場合。
2) 同一グループのマイクを近接場所(100 m以 上離れた場所)で同時に使用する場合。
3) 受信アンテナの設置場所によって、マイクが2m以 内の距離に接近する場合。
4) その他、電波障害による混信がある場合。

ご注意････アンテナ感度選択スイッチを"ロー"に切り換えた場合、ワイヤレスマイクの通達距離は1/ 2〜1 /3に減少します。ワイヤレスアンテナAA- 810 内部にも同様のスイッチがあり、設置工事をされる時は十分なテストをおこない、最適なスイッチポジションに設定してください。

端子カバーのはずし方

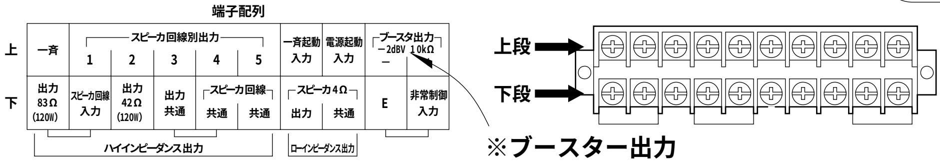
スピーカーやリモートマイク、その他の機器を本機に接続される時は 、後面の端子カバーを次の要領ではずしてください 。

●端子カバーの右側のねじをはずし 、図1の矢印の方向にカバーをはずしてください。各回線の接続後には必ずカバーを元どおり取付けてください 。



⚠ 警告 ●端子カバーをはずすときは 、必ず本機の電源プラグをコンセントから抜いてください 。

出力端子盤の端子配置



⚠ ●ご使用中は、感電の恐れがありますので、をはずさないでください。

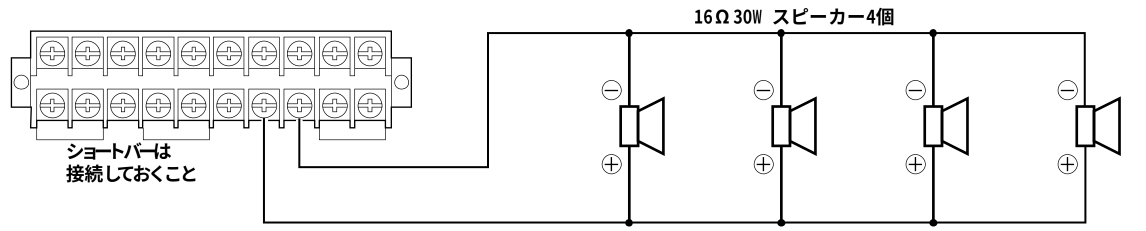
※ブースター出力からは 、内部のプリアンプ部の出力が直接出ています。

スピーカーの接続方法

ローインピーダンススピーカーの接続

○接続できるスピーカーの適合負荷インピーダンスは 4～16 Ωで、必要容量は120W(4 Ω)以上です。

接続例



特にご注意を.....

●ローインピーダンススピーカーとハイインピーダンススピーカーを同時に使用することはできません。

●多数のスピーカーを接続するときは 、全スピーカーの合成インピーダンスが 4Ω以下にならないようにしてください。

●使用するスピーカーの定格入力は 、スピーカー1個に加わる入力 W数より大きいものを使用してください。

●ローインピーダンススピーカーを接続したときは一斉放送になります。
（スピーカー選択スイッチは使用できません）

ハイインピーダンススピーカーの接続

○接続できるスピーカーの種類は下表のとおりです。

出力端子	適合負荷インピーダンス	スピーカーの必要容量
出力83Ω	83Ω以上	スピーカー(トランス付)の合計容量が120W以内
出力42Ω	42Ω以上	スピーカー(トランス付)の合計容量が120W以内※

※42Ω端子にハイインピーダンスのスピーカーを接続すると、スピーカーに加わる電力は表示電力の半分になります。 (例. 1kΩ 10W→5Wへ)

特にご注意を.....

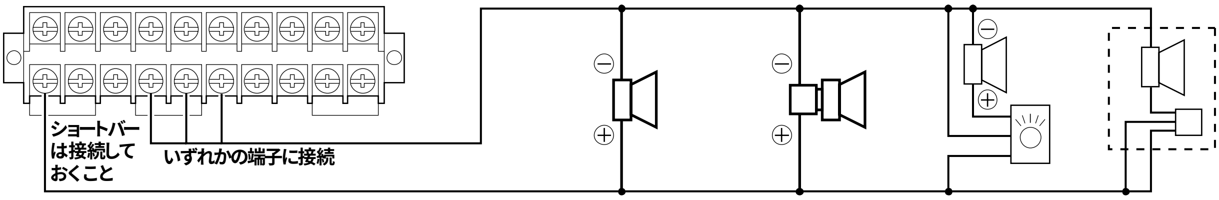
●スピーカーの合成インピーダンスが 、アンプの適合インピーダンスより小さくならないようにしてください。

●スピーカーの合計 W 数はアンプの定格出力以下にしてください。

●ハイインピーダンススピーカーとローインピーダンススピーカーを同時に使用することはできません。

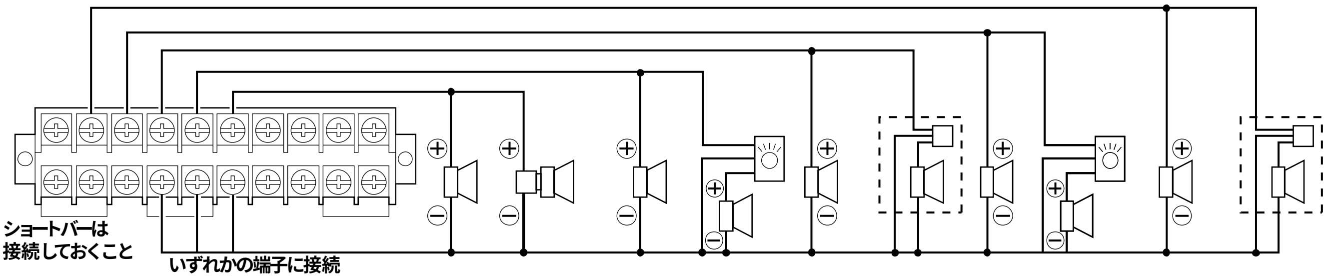
●感電に注意 !出力端子には、120W 出力時に次に示す電圧がかかります。
(出力83 Ω 約100V ／出力42 Ω 約70V)

１.1系統で放送する場合（スピーカー選択スイッチを使用しない場合）



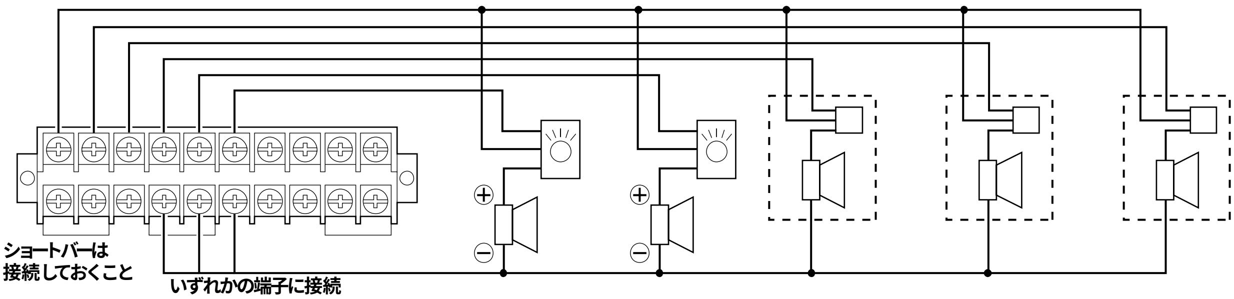
２系統別で放送する場合（２線式の場合）

一斉放送スピーカーは 使用できません。一斉放送する場合は各スピーカ選択スイッチ(1～5)を全部、押してください。

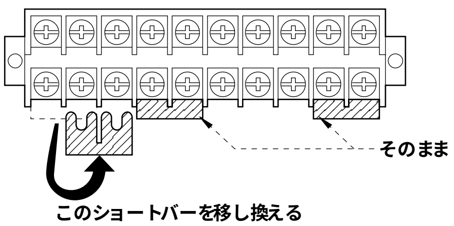


３系統別で放送する場合（３線式の場合）

アッテネーターの音量が「0」位置になっていても、一斉放送のときはすべてのスピーカーから放 送できます。

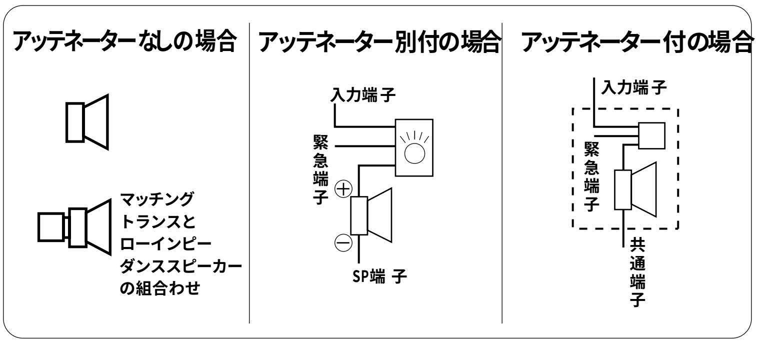


●出力42Ωに変更する場合



○出力83 Ωースピーカー回線入力間のショートバーをスピーカー回線入力ー出力 42Ω間に移し変えてください。

〈接続図のスピーカーの説明〉



スピーカー配線材の太さと配線可能距離のめやす

ローインピーダンス(4～16 Ω)の場合

線の太さ	φ0.9㎜	φ1.0㎜	φ1.2㎜	φ1.6㎜	φ2.0㎜	φ2.6㎜
距離	7m	10m	13m	23m	40m	60m

ハイインピーダンスの場合

線の太さ	φ0.9㎜	φ1.0㎜	φ1.2㎜	φ1.6㎜	φ2.0㎜	φ2.6㎜
42Ωの場合の延長距離	・・・・・・	90m	140m	250m	380m	650m
83Ωの場合の延長距離	145m	180m	280m	500m	770m	1.3km

800MHz 帯ワイヤレスマイクをご使用の場合

●本機はダイバシティワイヤレスチューナーユニット DU-8030(別売)を 2台組み込むことができます。
800MHz 帯ワイヤレスマイクをご使用される場合は 、ダイバシティワイヤレスチューナーユニット DU-8030(別売)とワイヤレスアンテナ AA-810(別売)を下記の要領で取付または、接続してください。

ダイバシティワイヤレスチューナーユニットDU-8030(別売)の取付方法

図2

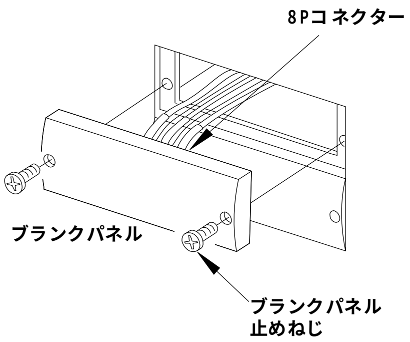


図3

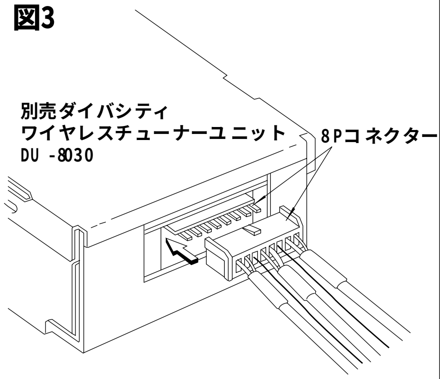
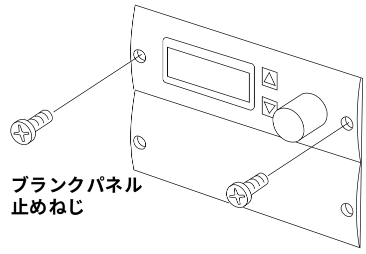


図4



1 本機の電源プラグをコンセントから抜いてください。
2 .ブランクパネルを取りはずしてください。ブランクパネルの裏側には接続用 8P コネクターが差し込まれていますので、そのコネクターをブランクパネルからはずしてください 。(図2参照)
3 .はずした8P コネクターを図 3のようにチューナーユニット後面の 8P コネクターに確実に差込んでください。
4 .ブランクパネルをはずした 2本のねじでチューナーユニットを取付けてください 。(図4参照)

特にご注意を.....

⚠ ●取付作業をおこなうまえには 、必ず本機の電源プラグをコンセントから抜いてください。
●ブランクパネルから8Pコネクターをはずす際にはブランクパネルのロックのつめをはずしてから取りはずしてください。またチューナーユニット挿入時には 、接続コードをはさみ込まないようにご注意ください。
●取付終了後、DU-8030 に付属のねじが1本余ります。取付方法の誤りではありません 。

ワイヤレスアンテナAA-810(別売)の接続について

●ワイヤレスアンテナ AA-810 を図5のように接続してください 。しかし、アンテナを２本だけしか設置しない場合はアンテナ A とアンテナ B にそれぞれ１本づつ接続してください 。(図6参照)
●アンテナ感度選択スイッチについては P.5の各部の名称と説明 (後面)をご覧ください。

図5

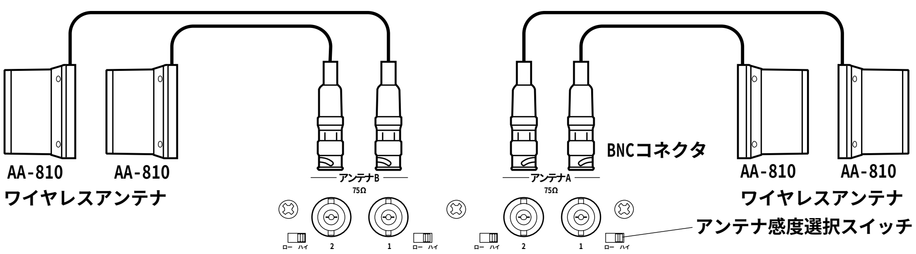
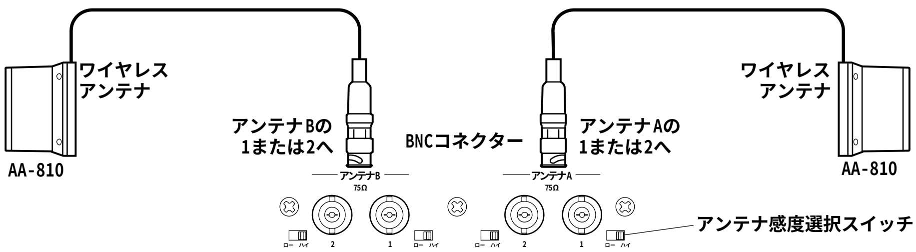


図6



アンテナ設置上のご注意

●ワイヤレスアンテナを設置する前に、あらかじめアンテナを仮設し、ワイヤレスマイクの移動範囲内で受信テストを行いデッドポイントが最も少ない所を選んでください。

●雑音や妨害電波を避けるため、下記のような機器(場所)の近くには設置しないでください。
高周波乾燥機、高周波医療設備、電気熔接機、ブラッシングモーター、デジタル機器(コンピューター・電子楽器)、自動車(道路)、静電式空気清浄器など。

●同軸ケーブルについてご注意······
アンテナを接続する前に、同軸ケーブル配線がショートしていないことを確かめてください。ショート状態で電源スイッチを入れると機器を傷めることがあります。

ワイヤレスアンテナAA-810/AA-800を設置される場合

●同軸ケーブルとBNCコネクターの接続、またはアンテナに直接ねじ止めする場合は完全に接続がおこなわれていないと、高周波損失を招き電波伝送に大変悪い結果をもたらします。十分ご注意ください。

●アンテナと本機との距離が長くなりますと、減衰が大きくなり受信状態が悪くなります。下記表を参考にして、使用する同軸ケーブルをお選びください。

使用可能同軸ケーブル	5C-2V	5C-FB
延長可能距離	約30m	約60m
使用コネクター	BNCコネクター、別売AW-01	

アンテナとワイヤレスマイクの関係について

●同じ周波数の妨害電波、高周波を使う機器が近くにないことを確認してください。やむをえず雑音源の近くでご使用になる場合は、ワイヤレスマイクとワイヤレスアンテナの距離は約2m～10mの距離でご使用ください。なお、2m以内に近づくと、使用していないチャンネルへの飛び込みや混信などが発生することがあります。その場合は本機のアンテナ感度選択スイッチ、またはワイヤレスアンテナ内部のスイッチをローに切り換えてください。(詳しくはP.5のアンテナ感度選択スイッチの説明をご覧ください。)
また、テレビなどの送信所の送信アンテナの直下では到達距離が短くなることがあります。

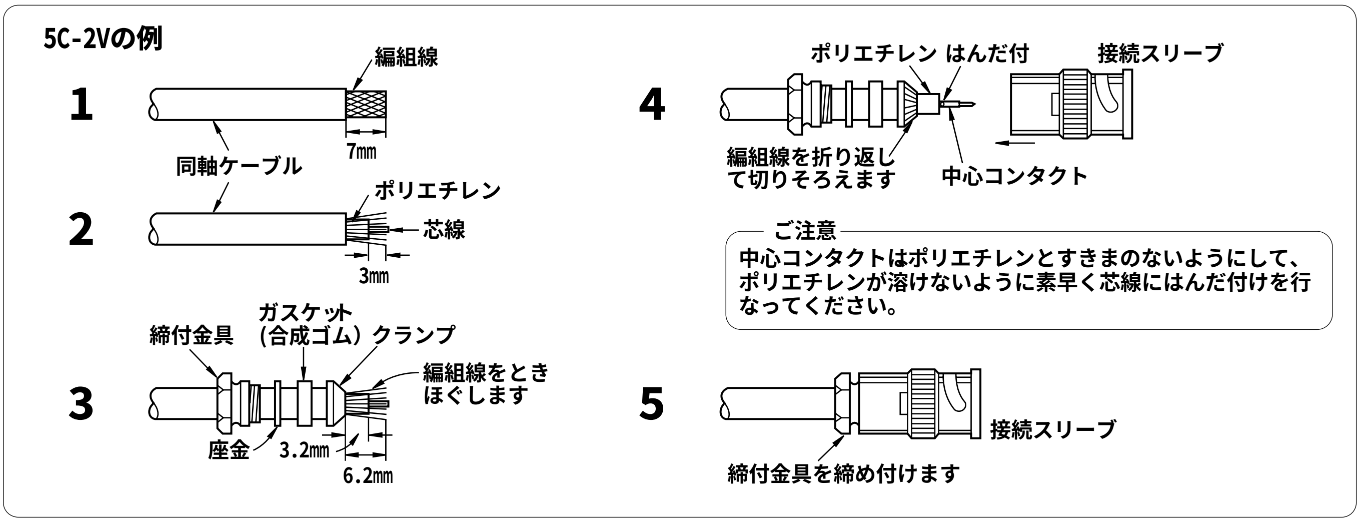
●ワイヤレスマイクを2本以上ご使用の場合は、マイクロホンどうしは50cm以上離してください。他の受信機へ混信することがあります。

注）使用中のワイヤレスマイクと同一周波数の他のワイヤレスマイクを「ON」にすると「ピー」という音がすることがあります。チャンネル(周波数)を変更してご使用ください。

BNCコネクター(AW-01)と同軸ケーブルの接続のしかた(例)

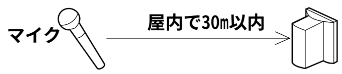
●同軸ケーブルの処理具合により受信性能が大幅に変わります。この説明に忠実にしたがってください。
また同軸コネクターは性能の良いBNCを使用してください。

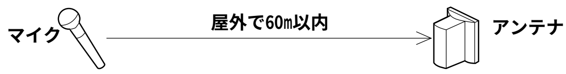
注） 接続後、芯線と編組線がショートしていないことをテスターなどで確認してください。



ワイヤレスマイクシステムの設計・設置について

ワイヤレスマイクの使用距離800MHz帯/300MHz帯共)



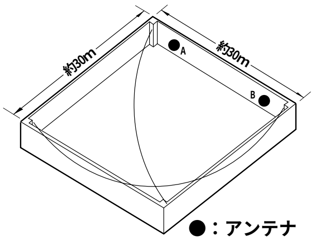


屋内でのアンテナの設置

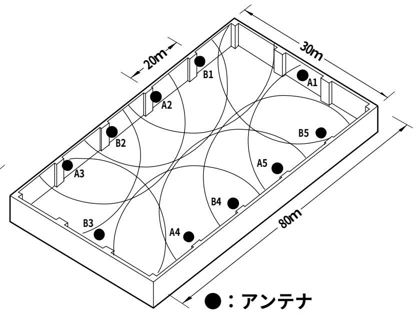
●アンテナから半径３０ｍ 以内がサービスエリアとなります。
●アンテナは500㎡に1本の割合で配置してください。
●アンテナの間隔は、できるだけ5 ～２０ｍ 以内にしてください。
●アンテナはワイヤレスマイクの使用範囲から直視できる位置に、垂直に設置してください。
●アンテナは電線や金属物から30㎝以上 離して設置してください。

ダイバシティの場合の注意事項

●アンテナは必ず2本以上偶数本で使用してください。
●アンテナを必ず多数設置する場合は、AとＢのアンテナを交互に設置してください。



アンテナを2本使用する場合

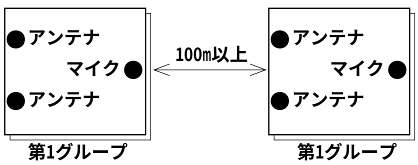


アンテナを多数使用する場合

同一グループを近接場所で同時に使用する場合

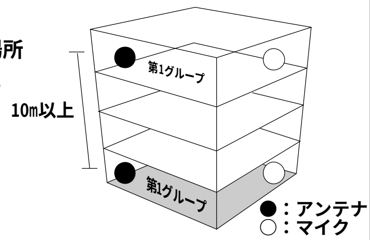
同一平面の場合

●お互いの使用場所を10０ｍ 以上離してください。



階層が異なる場合

●鉄骨/鉄筋構造の場合、お互いの使用場所を垂直距離で10ｍ 以上離してください。
(木造の場合は不可)

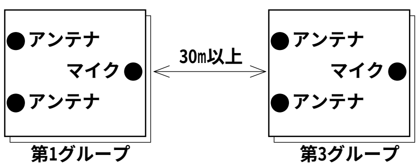


他のグループを近接場所で同時に使用する場合

例えば800MHz帯の第1グループ(B11～B16)と第3グループ(B31～B36)を近くで同時に使用する場合は、以下のような注意が必要です。

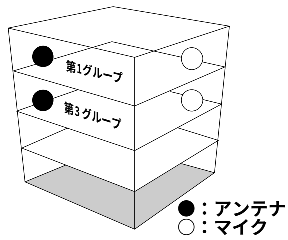
同一平面の場合

●お互いの使用場所を30ｍ以 上離してください。



階層が異なる場合

●鉄骨/鉄筋構造の場合、階層が異なれば、同一平面の場合のような制限はなく使用できます。
(木造の場合は不可)



注：同一閉空間 (仕切りは壁、戸、ガラス等)では、1つのグループ (800MHz帯では6chまで、300MHz帯では4chまで)しか同時使用できません 。

800MHz帯と300MHz帯の同時使用

※８００ＭＨｚ帯の一つのグループ(6ｃｈ)と３００ＭＨｚ帯(4ｃｈ)は、同一場所で同時に使用できます。従って1０chまで使用可能になります。この場合８００ＭＨｚ帯と３００ＭＨｚ帯のアンテナは50㎝以上離して設置してください。

ご注意

※上記資料はあくまで標準例のみを記述しています。設置場所によってはいろいろな数値が大きく異なる場合があります。
実際のシステムの設置に際しては事前に十分テストを行い、アンテナの設置位置決めや利得調節を行って最適システムを構築してください。

○上記は、ユニペックスワイヤレスマイクシステムの基本的な説明です 。
○本機に組み込むことができるのは 、800MHz帯ダイバシティワイヤレスチューナーユニット DU-8030です。300MHz帯ワイヤレスチューナーユニットは組み込むことは 、できません。
○300MHz帯ワイヤレスマイクを本機と共に 、ご使用になられる場合は 、300MHz帯ワイヤレス受信機に300MHz帯ワイヤレスチューナーユニットとワイヤレスアンテナを組み込み 、または接続し、本機と接続してください。

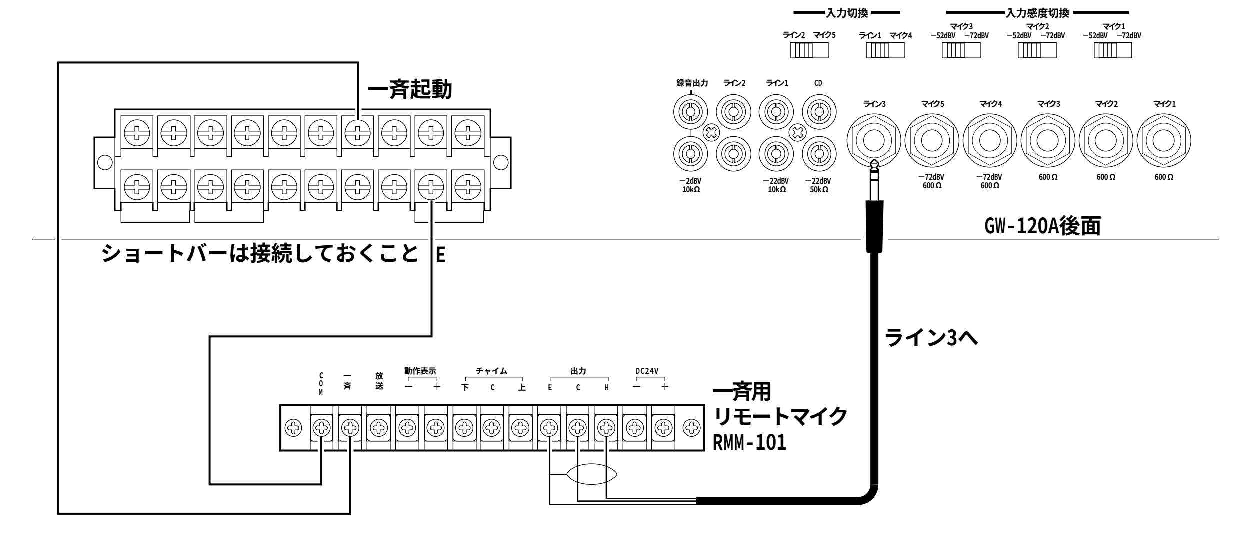
リモートマイクRMM-101との接続のしかた (リモートマイクの取扱説明書もあわせてご覧ください)

○図7のように配線してください。

○RMM-101の操作で本機の電源スイッチに関係なく動作します 。

○本機のスピーカー選択スイッチの入切状態に関係なく一斉放送されます。

図7



5回線リモートマイクRMM-105及びリレーボックスBR-5との接続のしかた

○図8のように配線してください。

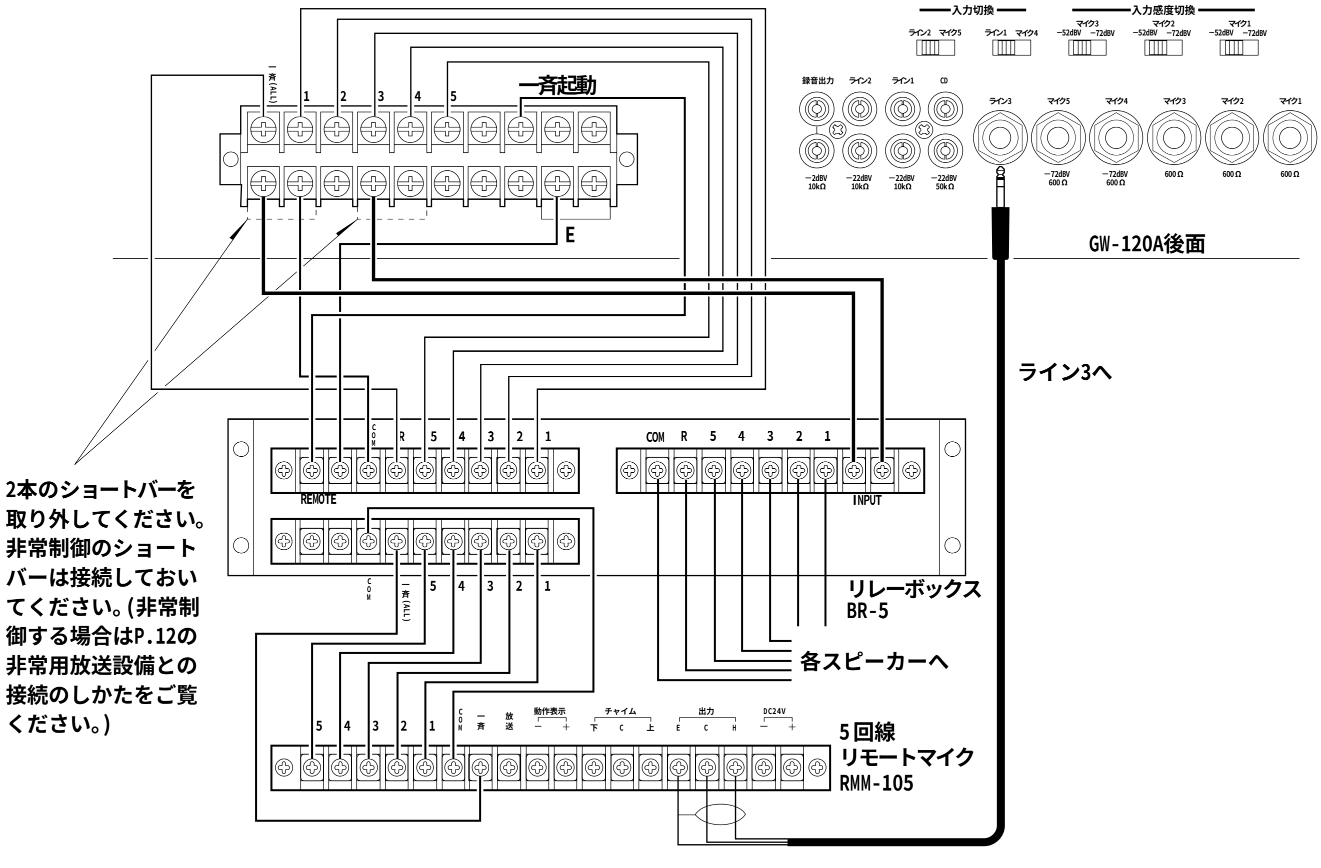
○各スピーカー回線は、BR-5 に接続してください。本機より直接配線はできません。

○RMM-105 の操作で本機の電源スイッチに関係なく動作します。

○RMM-105 の操作で各スピーカー回線および一斉放送がおこなえます。

○RMM-105 よりの放送系統は、BR-5 の動作表示灯の点灯により確認できます。

図8



ページングユニット(放送結合ユニット)との接続のしかた

○図9のように配線してください。

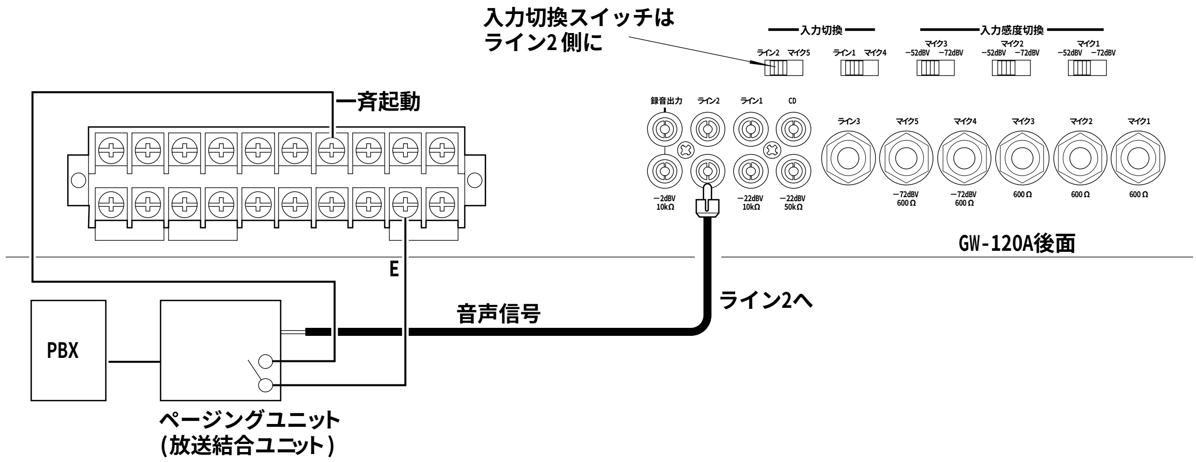
○ページング放送は、一斉放送になります。

○ページングユニットの音声信号は、本機のライン2入力ピンジャックに接続し、入力切換スイッチをライン2側に切り換えてください。(そのとき、マイク5入力ジャックは使用できません。)

○音量調節はライン2音量調節つまみでおこなってください。

○接続の際、ページングユニットの音声信号線に直流が重畳していないことを確認してください。

図9



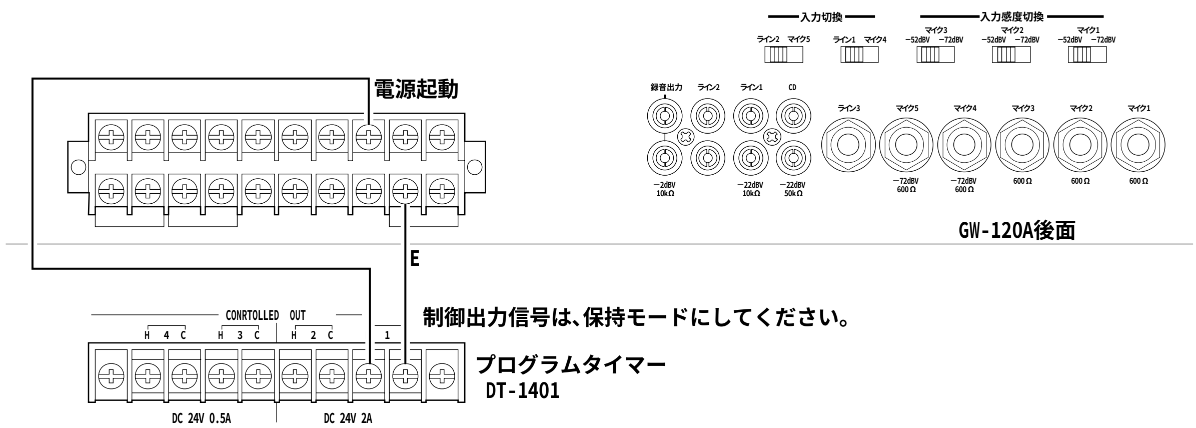
プログラムタイマーDT-1401(別売)との接続のしかた

○図10のように配線してください。

○プログラムタイマーDT-1401の信号により、本機の電源起動ができます。

○プログラムタイマーDT-1401の取扱説明書もあわせてご覧ください。

図10

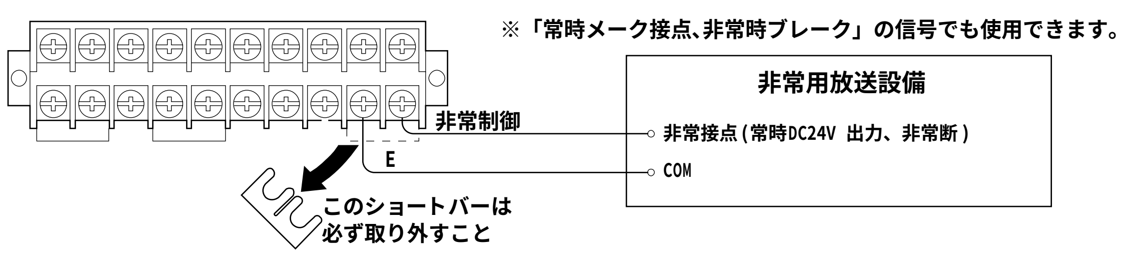


非常用放送設備との接続のしかた

○図11のように配線してください。

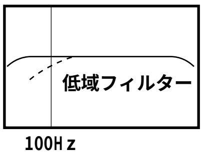
○非常用放送設備と本機を接続しますと、非常放送時に非常用放送設備から非常用外部制御信号を受けて、本機(業務放送)を断にし、非常用放送設備の放送を優先させることができます。

図11



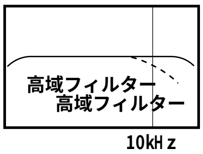
ロー•ハイカットフィルター／音場補正イコライザーの説明

ローカットフィルタースイッチ

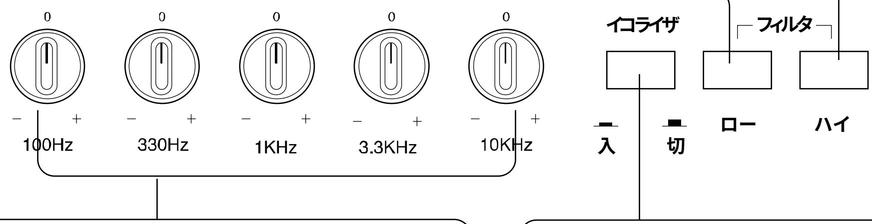


スイッチを押す（入にする）と100Ｈz以下の低音域を減衰させることができます。低音域の雑音をカットする場合に、このスイッチを入れてください。またマイク放送時、低音がこもって聞き取りにくい時、このスイッチを入れると明瞭なマイク放送が可能です。

ハイカットフィルタースイッチ



スイッチを押す（入にする）と10 kＨz以上の高音域を減衰させることができます。
テープのヒスノイズ（チーと言う音）など、高音域の雑音をカットする場合に、このスイッチを入れてください。



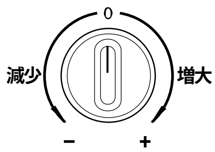
イコライザー調節つまみ

5ポイントの各周波数でのレベルを＋12 dB ～－12d Bまで連続的に変化させるための調節つまみです。各音場に合わせ5ポイントの周波数特性を必要に応じて補正することにより、マイク放送時のハウリング(キーンという音が出る)を抑えたり、体育館やホールなど反響の多い場所で明瞭度を上げるのに効果があります。

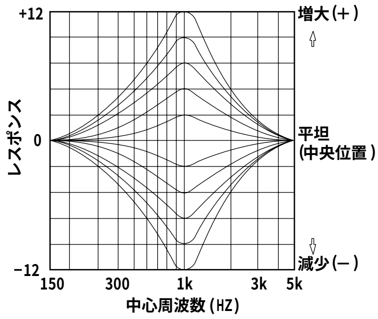
イコライザースイッチ

イコライザー回路の入•切をするスイッチです。周波数特性をコントロールするときに、このスイッチを押して（入にする）ください。また、このスイッチの入•切動作のくりかえしでイコライザーのきき具合を確認することができます。

周波数特性のレベル調節とめやす



○つまみ位置が中央でフラットな周波数特性です。
○つまみを「＋」方向でレベルが最大12d B増大します。
○つまみを「－」方向でレベルが最大12d B減少します。



点検方法

ほんのちょっとしたことで正常に動作せず、故障かな？と思うことがあります。
次の要領で点検してみてください。

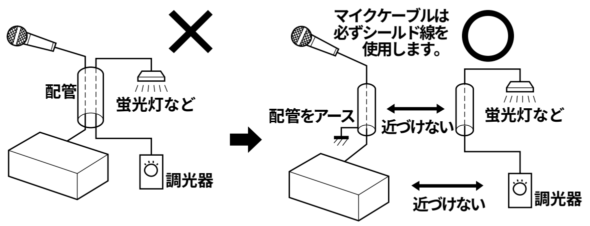
症状	点検項目	対策
全く動作しない。	電源が接続されていますか。	電源プラグをコンセントに差し込んでください。
	電源表示灯が点灯していますか。	電源スイッチを入れてください。
マイクの音声がでてこない。	マイクプラグは確実に差し込まれていますか。	確認してください。
	マイク4、5の場合はマイクに切り換わっていますか。	確認してマイク側に切換えてください。
	マイクは正常ですか。	他のマイクと交換してください。
	マイクの音量調節つまみの位置が0位置になっていませんか。	適当な音量にしてください。
スピーカーより音がでない。	スピーカー接続端子に正しくスピーカー線が接続されていますか。	スピーカーの接続をごらんになって確認してください。
	スピーカー線がショートしていませんか。	確認してください。
	スピーカー選択スイッチが正しく押されていますか。	選択スイッチを押してください。
音がわれる	出力レベルメーターの赤色LE Dが常時、点灯していませんか。	瞬間的に赤色のLE Dが点灯する以外は常に緑色のみの点灯になるように音量を調節してください。
音質がおかしい。	正しくイコライザーやロー・ハイカットフィルターが使用されていますか。	ロー・ハイカットフィルターの説明音場補正イコライザーの説明をよく読んで調節してください。
雑音がでる	スピーカー線やマイクコードなどは他の線と一緒に布線していませんか。	ノイズ対策をご覧ください。
外部接続機器の音がでない。または小さい。	接続機器及び本機の入力音量調節つまみは0位置になっていませんか。	適当な音量に調節してください。
	接続機器のレベルは合っていますか。	各入出力ジャック及び切換スイッチの説明をご覧ください。

⚠警告

●前頁の方法で点検されても正常に動作しないとき、または使用中に急に異常が発生したときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。煙などの異常が無いことを確認し、販売店などへご連絡ください。
●本機のカバーは絶対に開けないでください。感電の恐れがあります。修理は、必ず販売店などにご依頼ください。

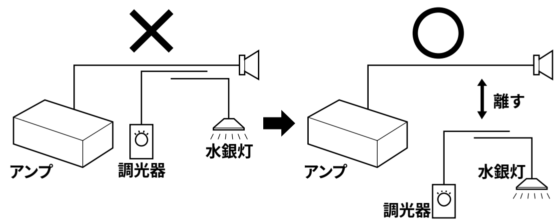
ノイズ対策について

外来ノイズの影響を受けないために 、配線については次のような点にご注意ください。



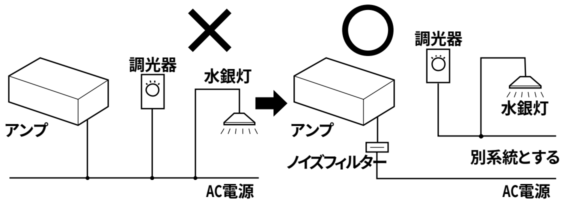
◆マイクケーブル等の入力線のノイズ対策

調光器系統、AC 電源系統とは必ず別配管とし、離して布線してください。



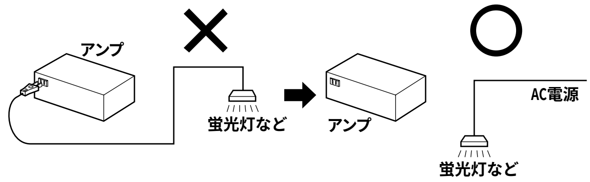
◆スピーカー線のノイズ対策

スピーカー線は調光器、水銀灯などの系統線とは離して布線してください。



◆電源のとりかた

電源は調光器、水銀灯などの系統とは必ず別にしてください。それでも不十分な場合はアンプへのAC100V電源線にノイズフィルターを入れてください。



◆サービスコンセントの使いかた

サービスコンセントには、蛍光灯などの音響製品以外の機器を接続しないでください。
（容量AC100V、100W以内）

連絡先のご案内

修理・お取扱い・お手入れについてのご相談ならびにご依頼はお買い上げの販売店にお申し付けください。
販売店に修理を依頼する場合は下記の項目をお確かめください。

①品　名　②品　番　③お買い上げ日　④故 障 の 状 況（できるだけ具体的にお願いします）

ご転居されたり、ご贈呈品などで販売店に修理のご相談ができない場合は最寄りの下記弊社営業所にご相談ください。

札幌営業所	〒064-0811	札幌市中央区南11条西 10-2-17	TEL.(011)511-5505(代)	FAX.(011)511-5529
釧路営業所	〒085-0025	釧路市宝町 3-8	TEL.(0154)25-3156(代)	FAX.(0154)25-6261
仙台営業所	〒984-0015	仙台市若林区卸町3-6-11	TEL.(022)232-1295(代)	FAX.(022)232-1297
東京営業所	〒110-0008	東京都台東区池之端2-3-17	TEL.(03)3821-3721(代)	FAX.(03)3827-5423
新潟営業所	〒950-0922	新潟市山二ツ 4-6-19	TEL.(025)287-3611(代)	FAX.(025)287-3613
金沢営業所	〒920-0362	金沢市古府 1-190	TEL.(076)240-4577(代)	FAX.(076)240-6737
静岡営業所	〒422-8037	静岡市下島 152-5	TEL.(054)238-1446(代)	FAX.(054)238-1453
名古屋営業所	〒466-0051	名古屋市昭和区御器所 1-3-29	TEL.(052)871-1671(代)	FAX.(052)872-4128
大阪営業所	〒556-0005	大阪市浪速区日本橋4-2-7	TEL.(06)6632-2855(代)	FAX.(06)6644-1624
岡山エリア連絡先			TEL.(086)244-2317(代)	FAX.(086)244-4461
高松営業所	〒760-0079	高松市松縄町 525-1-203	TEL.(087)868-1181(代)	FAX.(087)868-1331
広島営業所	〒730-0016	広島市中区幟町 5-29	TEL.(082)222-5511(代)	FAX.(082)222-5513
福岡営業所	〒810-0074	福岡市中央区大手門3-9-15	TEL.(092)721-5000(代)	FAX.(092)721-5089
鹿児島営業所	〒890-0052	鹿児島市上之園町8-12	TEL.(099)250-0220(代)	FAX.(099)257-3327

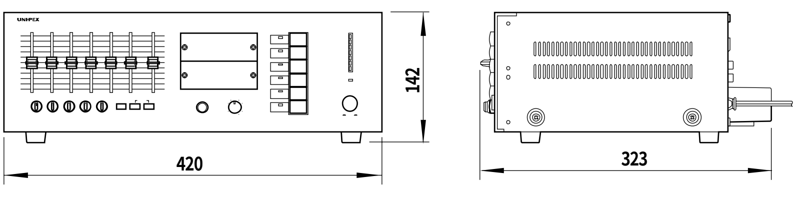
ユニペックス株式会社
本社/営業本部　〒573-1132　大阪府枚方市招提田近 3-6
お客様相談窓口（CS課）　TEL.(072)855-3334

定格

使用電源	AC100V　50/60Hz
定格消費電力	105W（電気用品安全法による測定方法に基づく）
消費電流	AC 3.9A （定格出力時)
出力	定格120W　最大240W
出力負荷 インピーダンス	83Ω　平衡 （ハイインピーダンスライン) 42Ω　平衡 （ハイインピーダンスライン) 4Ω（4〜16Ωスピーカー使用可能） 不平衡
録音出力	約−2dBV　10kΩ　不平衡
ブースター出力	約−2dBV　10kΩ　不平衡
ひずみ率	0.5%（ライン3入力　1kHz　定格出力時）
周波数特性	80Hz〜15kHz　偏差±3dB （ライン3、CD入力　定格出力−10dB時)
音質調節	イコライザー 5ポイント：100Hz、330Hz、1kHz、3.3kHz、10kHz、±12dB フィルター　ロー：100Hz −10dB以上(1kHz基準)、ハイ：10kHz −10dB以上(1kHz基準) 各々ライン3入力　定格出力−10dB時 (録音出力を除く)
入力感度及び インピーダンス	マイク 1〜3：約−72dBV／−52dBV（切換式）600Ω　電子平衡　音量調節器付 マイク 4　：約−72dBV　600Ω　電子平衡　音量調節器付 ライン 1　：約−22dBV　10kΩ　不平衡　音量調節器付　（マイク4/ライン1：スイッチ切換式） （マイク4とライン 1の音量調節器は兼用） マイク 5　：約−72dBV　600Ω　電子平衡　音量調節器付 ライン 2　：約−22dBV　10kΩ　不平衡　音量調節器付　（マイク5/ライン2：スイッチ切換式） （マイク5とライン 2の音量調節器は兼用） C　D　：約−22dBV　50kΩ　不平衡　音量調節器付 ライン 3　：約　−2dBV 600Ω　不平衡（平衡トランス LT-16取付可能） （マイク1〜5は絶縁トランス LT-16取付可能） ユニット部：約−28dBV　10kΩ　不平衡
信号対雑音比	55dB(マイク1〜5)、60dB(その他、ただしユニットを除く)
アンテナ入力	75Ω　不平衡（BNC）A/B　2入力　2系統 (ファンタム電源出力：12V 40mA×4) （アンテナ感度選択スイッチ付）
モニター	1W スピーカー内蔵　音量調節器付
スピーカー 出力回線	5回線一斉付　入力容量125V　3A以下（1回線　0.5A以下） 回線別表示灯（緑）及び一斉表示灯（赤）付
動作表示	電源表示灯：LED（赤）、出力：LED　定格内（緑5）過出力（赤2） 回線別表示灯：LED(緑)、一斉表示灯：LED(赤)
使用温度範囲	0℃〜+40℃
付帯機能	電源起動：無電圧メーク接点制御方式により本機の電源制御が可能 一斉起動：無電圧メーク接点制御方式により本機の電源制御及び一斉制御が可能 非常制御：DC24Vブレイクにより本機の電源がOFF 4音チャイム：別売のEC-24が取付可能
外装	パネル（鋼板）マンセル N1　近似色　ブラック半艶塗装 ケース（ビニルラミネート鋼板）マンセル N1　近似色 ブラック
外形寸法	幅 420㎜　高さ 142㎜　奥行 323㎜
質量	約 9.2kg
付属品	取扱説明書（保証書付）1、ショートバー3(端子板に取付済)
適合品	ダイバシティワイヤレスチューナーユニットDU-8030、4音チャイムユニットEC-24※、平衡トランスLT-16※

※4音チャイムユニットEC-24(別売)、平衡トランスLT-16(別売)の取付けをご希望の時は
販売店または最寄りのユニペックス営業所へご相談ください。

外観寸法図 (単位㎜)



RKTGW120A-H0-3